

# 労を惜しまず努力する —ウェッジウッドの恵み—

(株)日本設備工業新聞社  
代表取締役社長 高倉克也

進化論を唱えて自然科学に不滅の足跡を残したチャールズ・ダーウィンは生涯を通じて特定の職業に就かなかった。とても裕福な祖父の一族が彼を支援し、研究に専念できたといわれている。

ダーウィンの祖父ジョサイア・ウェッジウッド(1730—1795)は世界的な陶磁器ブランドの創業者としてイギリス陶芸の父と讃えられた。機能性と芸術性の統一をめざして実験と研究に明け暮れ、数多くの発明や新技術で産業革命の一翼を担う。

同時にアポリシヨニスト＝奴隷制廃止主義者として奴隷解放運動の先駆者となる。すべて人間は平等であるべきという信念のもと目先の利害を超えて不条理な差別に戦いを挑んだ。

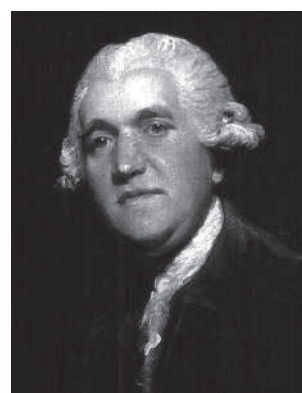
## 信頼できるパートナー

ジョサイアはイングランドのスタッフォードシャーで代々陶芸に携わる職人の家の末子として生まれた。スタッフォードシャーは質の良い粘土や石炭の産出地で陶芸家も多かった。

9歳で父を亡くし、長兄が受け継いだ工房で陶芸を学び始める。数年後、天然痘を患って右足が不自由になりながらも修行に没頭した。

少年時代から化学に興味を持ち青年期にかけて本格的に学習する。化学反応による物質の変化などを新たな作品制作に活かそうと悪戦苦闘する。29歳のとき独立し、念願のウェッジウッド社を設立。カリフラワーを模写したティーポットなどを製造し、独創的なデザインで評判を呼ぶ。

新製品の開発に情熱を注ぐジョサイアに信頼できるパートナーがあらわれた。リヴァプールの商人トーマス・ベントレーは利益一辺倒ではなく芸術に関する造詣も深かった。ふたりはたちまち意気投合し、奴隷制に対する意見も一致する。



ジョサイア・ウェッジウッド

当時、イギリスでは熱帯・亜熱帯地域の植民地における大規模農園プランテーションで黒人奴隷や先住民を酷使し、砂糖、綿花、コーヒーなどを大量に生産していた。非人道的な奴隷貿易に憤るジョサイアとトーマスは反対運動を開始する。

仕事では中国や日本の焼き物のような美しい白を表現することに苦心していた。ジョサイアはエナメルを使った独自の製法で乳白色の硬質陶器クリームウェアの製造に成功する。

産業革命の新時代を迎え、ウェッジウッド社は最先端のエンジターン(動力ろくろ)を導入し、低価格製品の大量生産が可能になった。とはいえデザインや色彩については妥協せず同業他社より高価格帯でブランド・イメージを確立する。

私生活では従姉妹のサラと結婚し、創作に際して常に彼女のアドバイスを受けるようになった。「女性の嗜好に関して彼女の助言なくしては私の

つくるポットも貧相な形態でしかつくれなかったでしょう。どんな些細な作品もサラの賛同がなければ完成しません」と手紙に書き記している。

## 名声の獲得と右足の切断

新しいものに対するジョサイアの旺盛な好奇心はとどまることがなかった。訪問診療の主治医で親友のエラズマス・ダーウィンにすすめられ、ルナ・ソサエティに参加する。ルナ・ソサエティとは満月の夜に語りあうという談論サークルで、蒸気機関を実用化したジェームズ・ワットや酸素を発見したジョセフ・プリーストリーなど歴史的な人物がそれぞれの専門分野を超えて交流を深めた。

多才で優秀な発明家でもあったエラズマスはウェッジウッド社のために顔料をすりつぶす動力として水平型風車を開発し、工場で活用された。ジョサイアは仲間の科学者たちのために硬く摩擦しにくいストーンウェアの実験器具を開発・提供した。従来の実験器具は木製や金属製で耐久性がなく酸に弱かった。磁器に近いストーンウェアはとくに化学者や薬剤師に重宝され、のちに調理器具などに改良して販売される。

技術的な問題が生じるたびにジョサイアは科学的な発想で解決していった。陶磁器を焼いている最中の窯の温度を測る技術がない頃は職人の直観や経験に温度調整が委ねられていた。ジョサイアは陶土の収縮を利用し、窯の中の温度測定を可能にするパイロメーター(高温測定計)を考案する。

商品の販売に際しては実際に魅力を伝えるためにロンドンの目抜き通りに初のショールームを開設。これに併せてカタログやダイレクトメールの作成、送料無料・返金保証などのサービス導入に着手し、各国の王侯貴族から支持される。

格調の高い優雅なデザインは国王ジョージ3世の妻シャーロット王妃から称賛され、女王陛下の陶工、クィーンズウェア(女王の器)と命名することを許される。ロシアの女帝エカテリーナ2世も魅了され、ジョサイアはディナーセットを献上する。最高級の陶磁器は外交に不可欠な贈り物として重要な役割を果たしていた。

国際的な名声を獲得したジョサイアも病気を食い止めることはできなかった。右足が悪化し、

膝下から切断する。だが陶芸への意欲は失われることなくストーンウェアを下地にしたオリジナル素地ジャスパーウェアの完成にこぎつける。気品のあるウェッジウッド・ブルーが人気を呼んだ。

## メダルを付けて街頭へ

共同経営者で奴隷解放運動の盟友でもあったトーマスが50歳で早逝する。傷心のジョサイアをエラズマスが代わりに支えた。

なんとか再起したジョサイアはこれまで以上に奴隷解放運動に打ち込んでいく。ジャスパー・メダリオン=碧玉のメダルを自費で制作し、無償で配布した。メダルには「私は人間ではないのか、仲間ではないのか?」と記され、ひざまずく黒人奴隷が描かれていた。アメリカ独立革命を指導したベンジャミン・フランクリンにも手紙を添えて送り、アメリカ議会図書館に保存された。やがて多くの人々が帽子、衣服、髪などにメダルを付けて街頭を闊歩するようになる。

ウェッジウッド社の礎を築き、奴隷解放運動に尽力し、自由・平等・博愛を掲げたフランス革命を支持したジョサイアは64歳で他界する。努力さえ怠らなければ道は開けるという信念を抱いていた。後世に「私たちを取り巻く大地は限りなく広がり、よい土は豊富にあり、労を惜しまず努力する者には、その苦勞に報いる充分な恵みがある」という箴言を残している。

長女のスザンナはエラズマスの息子ロバートと結婚し、チャールズを生んだ。チャールズは1859年に『種の起源』を発表し、進化論で有名なチャールズ・ダーウィンとして大成する。

会社を受け継いだ次男はジョサイア2世を襲名し、陶土に牛の骨灰を混ぜて強度と透明性を高めた磁器ファインボーンチャイナを開発して期待に応えた。彼の娘エマはチャールズ・ダーウィンの妻となり、夫の研究を支えていく。

奴隷制の廃止はジョサイアの死後、19世紀に入って実現する。イギリスでは1807年に奴隷貿易廃止令が成立し、1833年に植民地も含めて完全に廃止された。アメリカでは奴隷制をめぐって南北戦争が勃発し、リンカーン大統領による1863年の奴隷解放宣言を待たなければならなかった。